

1、はじめに

わが国の物流は、都市交通問題、環境問題など種々の問題への対応を求められており、その改善が必要とされている。これらの問題解決のためには、専門家だけでなく、過度な物流サービスを要求しないなど、広く一般国民の理解や協力が必要である。

しかしながら学校教育においては物流について学ぶ機会が与えられていない。そこで本研究ではこのような現状を改善するために高校生を対象とした物流に関する教育教材を作成し、楽しみながら物流を学び、広く理解してもらうことを目的とする。

2、インターネットを用いた物流教育教材

教育教材には教科書やビデオなど多種あるが、インターネットは環境さえ整えば「いつでも」「どこでも」学習可能である。教師ではない第三者の立場で教材を作成する場合、最も適していると言える。

作成した教育教材は、導入・展開・エンディングの三部から構成される。図1は教材のトップページである。各所、イラストや文章表現、文字・絵の配置、使いやすさ等に考慮した。エンディング部分では楽しみながら学ぶことを目的として、「物流クイズ」を作成した。

3、評価結果

図2と図3に評価結果を示す。アンケートは14項目の質問を行い「良い」「悪い」を5点～1点でつけてもらった。図2は「使いやすさ」と「わかりやすさ」、図3は「教材としての進め方」と「わかりやすさ」の回答をクロス集計した結果で、図中の丸の大きさは回答した人数を示す。図よりインターネットを使うことのできる人には楽しく、わかりやすく学んでもらうことができた。しかし、操作性や進め方が良くないと感じた人にはわかりやすさの評価も低い。教材(インターネット)の操作方法の説明が不足しており、インターネットの使い方を知らない高校生への配慮がより必要であることがわかった。

評価結果より「ホームページの使いやすさ」「教材としての進め方」「教材としてのわかりやすさ」「内容に興味を持つ」には関連があることがわかり、教材の内容理解には操作性や教材としての進め方が重要であることがわかった。

4、まとめ

本研究ではインターネットを用いて高校生を対象に物流教育教材を作成した。そしてアンケートを行った結果、次のことがわかった。

普段最も目にする輸送業務以外の保管等についての業務内容を充実させ、身近(コンビニの商品の流通加工等)な例や簡単な言葉で説明したことで、物流が普段の生活に非常に密着し、様々な業務があるということを理解してもらえた。研究目的である物流を広く浅く理解してもらうことができた。

小中学生向けの物流教材も、まだごく一部でしかないので、高校生も含め一般的な物流の認知度は非常に低い。今後も小中学生向けを合わせ、このような物流教育教材は必要である。

アンケート結果のクロス集計より、教材の操作性とわかりやすさには相関があることがわかった。つまり、幅広い対象者に学習してもらいたい場合、教材の使い方(トップページのどこから入るか等)の説明の充実が必要であることがわかった。

物流を全く知らない人にとっては実際の写真を使用するよりも、イラストをオリジナルで作成することで内容が抽象化できるので、イメージしやすく内容に入り込むための有効な手段になることがアンケート結果よりわかった。

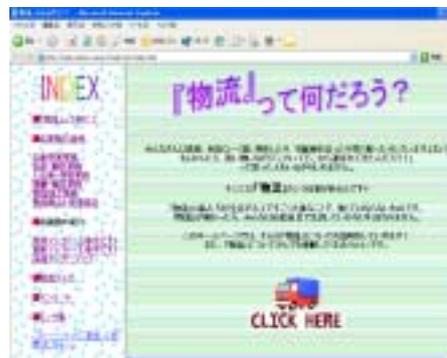


図1 トップページ

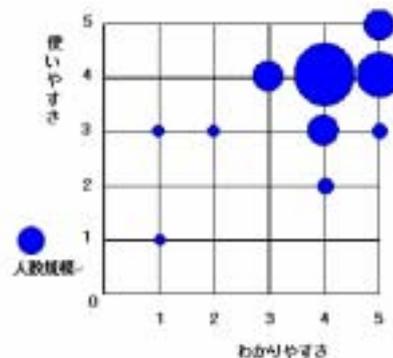


図2 アンケート結果のクロス集計

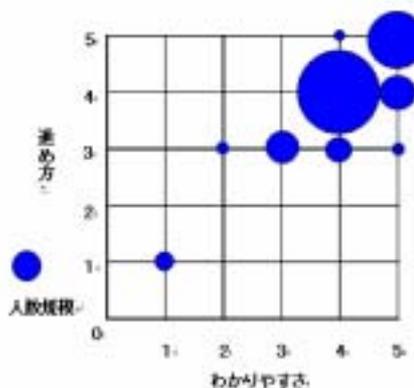


図3 アンケート結果のクロス集計